

【金賞】

『おじいちゃんの宝物』

延岡市立西小学校 5年 石坂 夏希

わたしはお米が大好きです。もちもちしていて、少しあまくて、とてもおいしいです。小さいころから毎日お米を食べていたので、一番の好物です。

わたしの家のお米は、おじいちゃん、おばあちゃんが作ったものです。少しねばり気があって、ちよっぴり固くて口に入れると歯ごたえがあります。わたしは、田植えを手伝ったり、年末におじいちゃんの家に戻った時にとれたもち米でおもちを作ったりしています。おじいちゃんの家は、山のおくであり、田んぼはだんだんになった棚田です。田植え機や稲刈り機を入れるのが大変な所にあります。おじいちゃんは、十八さいのころから農機具を作って米づくりをしていたそうです。

ところが、夏休みに入る前におじいちゃんがけがをして病院に入院してしまいました。わたしは何度もお見まいに行きました。おじいちゃんは、いつもおばあちゃんに「田んぼの水は干上がっちゃらんか。」「なえはちゃんと育っちゃるか。」と、聞いていました。田んぼの水は、おばあちゃんがかん病の合間に見に行ったり、近所の人たちが見に行ってくれたりしました。また、おじいちゃんは病室のまどから外を見て、晴れた日には、「今日はなえがよく育つぞ。」と、雨の日には、「あぜがくずれなければいいな。」と言っていました。そんなおじいちゃんを見て、「やっぱりおじいちゃんは、田んぼがとても大事なんだな。」と、思いました。そして、おじいちゃんの田んぼへの思いがじんわりと伝わってきました。

しばらくして、おじいちゃんが退院しました。その日はおじいちゃんのたん生日でした。おじいちゃんの顔は笑顔で輝いていました。病院から家に帰ると中、おじいちゃんは車をおりて、一まい一まい丁寧に田んぼを見て回りました。そして、稲の根元の太さや田んぼの水の様子を、じっくり見ていました。「帰ってこられてよかったなあ。」とわたしは心からそう思いました。

おじいちゃんはだんだん元気になって、今では農作業ができるようになりました。草をかいたり、肥料をまいたり、いのししよけの線を張ったりして、その表情はとても生き生きとしています。今、おじいちゃんの田んぼは、青々とした稲が順調に育っています。きっと、秋にはたくさんのおいしいお米がとれるでしょう。

田んぼはおじいちゃんのかげがえのない宝物です。そして、わたしたち家族の宝物でもありません。そんな田んぼを、わたしはずっと守っていききたいです。